

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students

プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 宮本 慎之介
所属 (School) 理学系研究科 物理科学課程
学年 (Grade) 修士 1 年

留学先 (Name of overseas institution)
錯体化学研究所(LCC-CNRS),
トゥールーズ III-ポール・サバティエ大学

留学期間 (study abroad period)
2017/10/3~2017/11/30 (59 日間)
記入日 (Date) 2018/1/10



留学レポート Study Abroad Report

今回私は共同研究の一環としてフランスの錯体化学研究所 (LCC-CNRS)、トゥールーズ III-ポール・サバティエ大学に留学させていただきました。元々英語が好きで海外の友達や知り合いを増やしたいと考えており、高校生の頃に来ていた交換留学生と積極的にコミュニケーションを取るなど、自分も留学をしてみたいという気持ちは昔からありました。ところが、実際はこれまで海外旅行の経験すら無く、海外での生活への憧れが募るばかりでした。共同研究の話が持ち上がり、フランスへ研究留学ができるという事だったので、初めての海外で不安もありましたが思い切って行くことにしました。

研究室での自身の研究テーマは、「有機磁性体からなる錯体の合成及び物性評価」です。物理分野の人間である自分が錯体化学専門の研究所で学ぶことができる今回の留学は、他分野の専門知識を深めるだけでなく、日本語が使えない異国の地で異文化に触れることができるので、自身の価値観・世界観にも何か良い影響を与えてくれるのではないかと考えました。

私は2ヶ月間、フランス人のおばあちゃんが住んでいる家に一緒に住まわせてもらっていました。そこには自分以外に、中国、インド、ベルギーからの留学生が住んでおり基本的に共通語である英語でコミュニケーションを取っていました。最初は、初めての海外ということもあり、言いたいことは伝わるけど流暢に英語が話せるわけでもありませんでした。それでも皆、自分が言いたいことを一生懸命くみ取ろうとしてくれて、お互いに身振り手振りや表情を最大限利用することで、微かなニュアンスを伝えることに多少もどかしさを感じることはあっても、会話それ自体に苦痛を感じることはありませんでした。そうこうしているうちに英語を話すことにも聞くことにも慣れてきて、英語で話し考えている夢を見るようにもなりました。英語漬けで生活しているとこんな夢を見るのか！と自分でも驚きました。フランス人のおばあちゃんは英語があまり得意ではなく、フランス語で話しかけてくれるのに自分は上手く返事ができないことが多かったので、このままではもったいないと思い研究所で実験の空き時間にフランス語の勉強をしていました。その結果、簡単なフランス語であれば、ゆっくりではあるものの少し話せるようになりました。一緒に住んでいた留学生たちもフランス語を教えたので、楽しく勉強することができました。



現地での研究に関しては、日本で合成した有機磁性体を持っていき、新規錯体の合成を行いました。普段日本では合成・物性測定の両方を自分でやっているのですが、派遣先の研究所では測定専門の人がいて、その人に測定サンプルを渡して測定してもらうという体制でした。日本の研究室とは違うところも多々あり、慣れるのに時間がかかりました。化学の専門知識がほとんどない自分にとって、英語で化学に関する事柄を話し合い実験に取り組むというのは正直かなりしんどかったです。しかし、研究室メンバーが研究面でも精神面でも良くフォローしてくれたこともあり、メリハリのある研究生活を送ることができました。私がお世話になった研究グループにはフランスだけでなくヨーロッパ・アフリカ各地の研究者がおり、1日に3回あるコーヒブレイクの時に様々な話をしました。各国の文化や政治情勢、就職事情などをニュースではなくその国の人から直接聞くことができ、それに関して自分の感想を伝えて議論できるととても充実した時間でした。中には日本のアニメ・ゲームが大好きな Ph.D. コースの人も居たりして会話がとても弾みました。おすすめの観光地やイベント、交通機関の上手な使い方などについて積極的に情報を教えてくれたりしたので週末の予定を立てることに困りませんでした。

今回私が滞在したトゥールーズはバラ色の街と呼ばれ、中心地ではレンガ造りの建物が多く、どこを見回してもとても色鮮やかな光景が広がっていました。気候はフランスの中では比較的穏やかで、人々も親しみやすい人が多く、食べ物も美味しい。普段から時間に追われることもなく、休日はしっかり休む。日本での暮らしを考えると、ストレスフリーでとても過ごしやすい場所だと感じました。確かに日本は快適な暮らしができる国ではありますが、フランスにはそれとはまた違った居心地の良さがありました。

毎日、研究所で実験を終え疲れ果てていましたが、家に帰るとおばあちゃんや留学生たちが温かく迎えてくれました。研究所でもそうでしたが、家に帰っても留学生たちとそれぞれの国の話、個人的な話を飽きることなく毎日毎日していました。冗談交じりのくだらない話もすれば、深刻なテーマについてじっくり議論することもありました。今回の留学での収穫は、人とのコミュニケーションから得るものが非常に多かったです。異国の地で人を知り、異文化を知ることは私にとって新鮮でとても興味をそそるものでした。十分すぎる程に人々の温かさにも触れることができ、彼らと過ごす時間の中で自分を見つめ直すこともできました。日本で当たり前だったことが他の場所では当たり前ではないということ、世界について頭で分かった気になっていた事も、実際に自身で体験してみて初めて実感と共に自分の一部になった気がします。たった 2 ヶ月といえはそれほど長くはありませんが、間違いなく行って良かったと断言できる充実した 2 ヶ月でした。

留学してみたいと考えてはいるけど、一歩踏み出せずにいる人は少なくないと思います。私もそう思っていた内の一人でした。英語も綺麗に話せないし、海外に自分だけで行ってそこで生活するなんて想像できない人もいます。しかし、いざそういう環境に身を置いてみれば案外なんとでもなります。言葉を完璧に話せなくても、伝えようとする意志さえあれば相手も理解しようとしてくれるものです。初めての環境に慣れるのは簡単ではないかもしれませんが、今のままだと気付かなかったことや新しい自分に出会うチャンスでもあります。留学に行く時間やお金など心配なことはあるかもしれませんが。しかしそれでも、何か目的を持って留学に行く価値はあります。できるだけ若いうちに日本以外の環境に身を置いてみることは今後の人生観にも大きな影響を与えたいと思います。何か日本では味わえない経験がしたい、視野を広げてみたいと思う人はぜひ留学に行ってみてほしいと思います。

